

# イデックスオイルレポート ~For a week~

2024/1/26作成 (株)新出光

## 【概況】<中東情勢の緊迫～紅海近郊の治安悪化による供給不安>

●19日、イランとパキスタンの関係が急速に悪化しており、中東地域の紛争拡大への警戒感から、午前の相場は75ドルを目指す展開だった。しかし、その後は一転して売りが膨らみ、昼ごろまでに73ドル台前半に下落。世界最大の石油輸入国である中国経済の成長鈍化や、米欧などの景気後退への根強い懸念が利益確定の動きにつながり相場は73.41ドルへ反落しました。

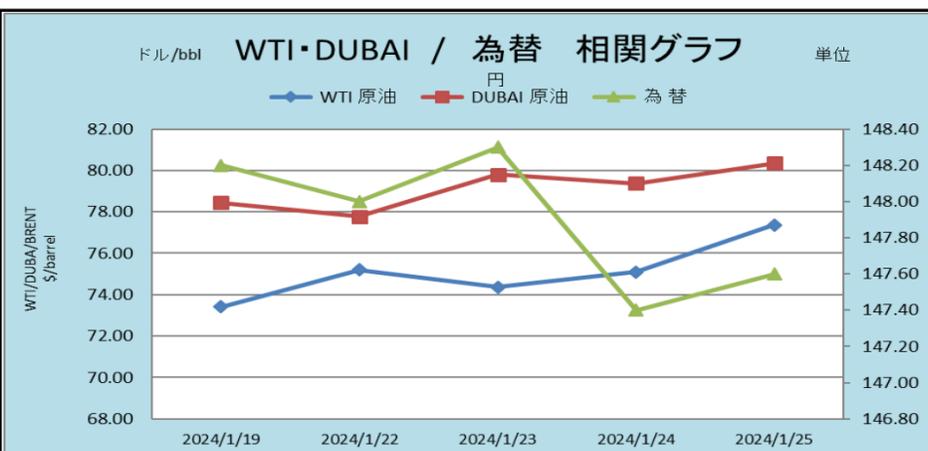
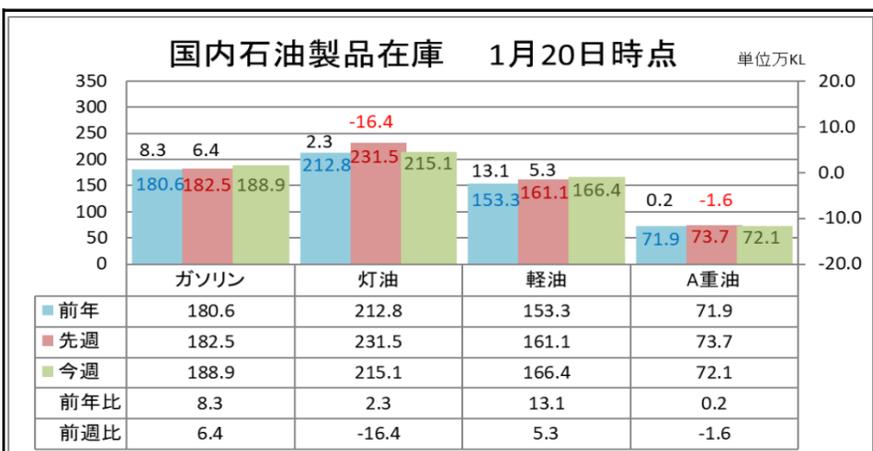
●22日、ロシア天然ガス大手ノバテックは21日、同国北西部レニングラード州ウステルガにある同社の施設で同日未明に発生した火災を受け、巨大輸出ターミナルでの一部操業を停止したと発表。ウクライナのメディアは、火災の原因はドローン攻撃だとの見方を伝えた。当局による22日の発表によると、火災は鎮火したもよう。紅海の治安悪化に伴う石油供給混乱への懸念に加え、世界第3位の産油国であるロシアの石油関連施設の攻撃を受け供給不安への警戒感が高まり、相場は75.19ドルへ反発しました。

●23日、ロシアの天然ガス大手ノバテックの施設へのドローン攻撃や寒波の影響を受けた米国の生産減を背景に原油買いが活発化した。この日は利益確定の売りが先行し、相場は午前に行った73ドル台まで下落。中東の地政学リスクの高まりや米国産原油の供給減を懸念材料に旺盛な買い戻しが入り、75.25ドル近辺まで上昇する場面もあったが、再び売りに押され相場は74.37ドルへ下落しました。

●24日、米エネルギー情報局(EIA)が午前発表した週報によると、19日までの1週間に米原油在庫は920万バレル減少。市場予想(220万バレル減=ロイター通信調べ)を大きく上回る取り崩しとなった。厳しい寒波が影響したとみられ、同週の産油量は昨年7月以来5カ月ぶりの低水準を記録。これをきっかけに需給引き締め観測が台頭し、相場は75.09ドルへ反発しました。

●25日、ロイター通信によると、デンマークの海運大手APモラー・マースクは24日、紅海とアデン湾を隔てるバブ・エル・マンデブ海峡を北上していた米国籍船の船舶2隻が、付近で爆発が確認されたことを受けてアデン湾に引き返したと発表した。その後イエメンの親イラン武装組織フーシ派は、同海峡で商船2隻を護衛していた複数の米軍艦を標的にしたと表明した。紅海付近での治安悪化の影響が産油国にも及ぶのではないかと、との見方が広がり、供給不安から買いが集り相場は77.36ドルへ続伸しました。

1月26日 | 16:00現在 | WTI原油 | 76.73ドル | 為替 1ドル | 148.70円



	次回元売変動予測	
	2/1~	元売変動予測
ガソリン	→	-0.7~-0.2
灯油	→	-0.7~-0.2
軽油	→	-0.7~-0.2
A重油	→	-0.7~-0.2
LSA	→	-0.7~-0.2

### 【製品卸価格】

《今週》今週の元売り仕切り改定は、3社ともに原油コストは「+1.0円」、補助金は、「-18.2円・60%」、都合「-0.9円」の値下げ改定となりました。資源エネルギー庁の公表する全国レギュラーガソリンの22日時点の小売価格平均は175.2円となっております。

《1月27日以降》次回の元売り改定は、原油コストは「+2.0円~+2.5円」、激変緩和補助金は「-20.9円・60%」の見込みで、都合「-0.7円~-0.2円」の改定の予測となっております。

※原油コスト「+2.0円~+2.5円」  
 ※激変緩和補助金「-20.9円」 前週比-2.7円  
 ※現時点での予測です。

## 【次世代エネルギー】<山陽小野田市、出光興産株式会社、西部石油株式会社による包括連携協定の締結>

山陽小野田市(山口県)、出光興産株式会社、西部石油株式会社(出光興産100%子会社)の3者は本日、包括連携協定を締結しました。3者それぞれの資源や機能を活用し、山陽小野田市域の持続可能な発展と脱炭素社会・循環型社会の実現を推進します。

なお、本協定は、西部石油株式会社山口製油所の石油精製機能の停止(停止予定:本年3月)と、その後の跡地を利用した新事業展開を契機として締結されたものです。

山陽小野田市は、長年にわたり化石燃料などのエネルギー産業に支えられて発展してきました。また、太陽光、水素など再生可能エネルギー関連の企業や施設も数多く立地しており、多様なエネルギー産業の集積地となっています。世界的にカーボンニュートラル社会の実現が推進されている中、西部石油株式会社の事業転換をきっかけに、山陽小野田市の地域経済もまた新たな転換点を迎えようとしています。

そこで、次世代エネルギーの社会実装と地域課題の解決に取り組む出光興産株式会社とともに3者の強力なパートナーシップを構築し、山陽小野田市のもつ多様なエネルギーとそれに関連する社会インフラを活用した取り組みを広げ、脱炭素化を通じた地域経済の活性化を図っていきます。そして、山口県や山陽小野田市立山口東京理科大学、地元企業等と力を合わせ、持続可能性の高い山陽小野田市ならではの脱炭素社会・循環型社会の実現を目指します。

【出典】 出光興産HP [https://www.idemitsu.com/jp/news/2023/240122\\_2.html](https://www.idemitsu.com/jp/news/2023/240122_2.html)